
音楽分科会

I 研究のあゆみ

4月23日(火)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月13日(月)	研究計画の検討(第1次実践の検討)	【星ヶ丘小】
6月19日(水)	研究内容の検討(第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【星ヶ丘小】
7月23日(火)	レポートの検討	【星ヶ丘小】
8月~9月	全体での会は開かなかったものの、市集会発表内容について個別に検討	
9月21日(土)	第74回名古屋市中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

本分科会では、小学校から8本、中学校から4本の実践が報告された。その中でも、主体的に考え、仲間と関わることで音楽表現を高め合ったり、音楽を形づくっている要素を手掛かりに、思いや意図に合った表現活動を行ったりするための手立ての工夫がなされた実践が多く見られた。実践内容は以下の通りである。

- 主体的・協働的に思いや意図をもって音楽表現を工夫する歌唱の実践(4本)
- 自分の思いを主体的に表現する鑑賞・歌唱の実践(1本)
- 知識を身に付け、表現に生かす活動を通して表現できる音楽づくりの実践(1本)
- 思いや意図をもって、表現を工夫することのできる歌唱の実践(1本)
- 拍を捉えた身体表現の工夫をすることで、音楽に合わせて表現できる歌唱の実践(1本)
- 音楽を形づくっている要素に着目し、音楽表現の工夫ができる歌唱の実践(1本)
- 協働的な活動を通して音楽表現を楽しむ歌唱の実践(1本)
- オノマトペから想像する経験を通して表現を楽しむ歌唱と音楽づくりの実践(1本)
- 曲想や歌詞に合った歌い方を工夫することのできる歌唱の実践(1本)

III 今後に残された課題

- 音楽の諸要素と曲想との関わりを感じ取る力は身に付いてきているため、自分自身で表現する力を身に付けていくことが大切である。
- 実践を終えた後、子どもがどのように感じたのか、何を学んだのかを整理する活動を行い、探究心を高めていくことが大切である。
- 思いや意図をもつことで終わるのではなく、その思いや意図を音や音楽で表現するための力を身に付けていくことが大切である。